

### 【(3) 言葉遣いや態度】

- ④「授業と休み時間を区別した言葉遣いをしている」
- ⑤「丁寧な言葉遣いを心掛けている」

#### 《つまずきの背景》

Ｌ セルフモニタリングの困難さ、Ｑ 状況理解の困難さ

#### 《解説》

子どもにとって教師という存在は、まねをしたい対象であったり目標であったりします。授業中、教師が丁寧な言葉で子どもに働き掛けることで、子どもも丁寧な言葉を使います。また、休み時間と授業中で言葉を使い分けることで、授業中は公的な時間であるという意識を持たせることができます。

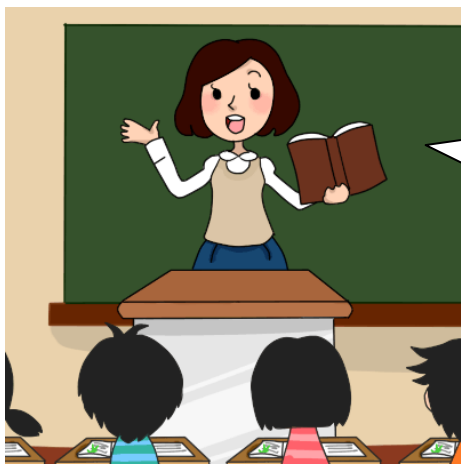
学級の中には、周りの状況を見て言葉を使い分けたり、自分の言葉が他人にどう影響を及ぼしているか振り返ったりすることが苦手な子どもがいる場合があります。教師が丁寧な言葉遣いを心掛けるとともに、子どもが適切に表現できたときはすぐに褒めることが大切です。また、場に応じた言葉遣いを文字で掲示することで、適切な言葉を使おうと意識します。

教師によって対応が変わらないよう共通認識を持つことが大事です。また、言葉遣いは、場面だけでなく大人と子ども、子どもと子どものように関係の中で使い分けることも大切なので、学年に応じて対応していく必要があります。

#### 【工夫点】

- ・教科書に出た言葉を活用する。(小 工夫例 20)
- ・場に応じた言葉遣いを掲示する。(小中高 工夫例 21)

#### ◆工夫例 20 「教科書に出た言葉を活用する」



#### 《国語（小学校 1 年生）》

国語の「じどう車くらべ」のなかで「です」「ます」という言い方が出てきたのをきっかけに、生活の中で子どもに意識させるようにします。また、「ですから」という表現方法をはやらせようと学年で統一したワークシートを使って取り組みます。

#### ◆工夫例 21 「場に応じた言葉遣いを掲示する」



#### 《小学校 1 年生》

幼稚園のときの呼び方（〇〇ちゃん、〇〇君）から、授業中は名字で呼ぶことに変えます。その際、それが良い呼び方であると子どもに伝え、意識させます。